

生ごみの減量で地球温暖化を止めよう


市は令和2年8月に県内初の気候非常事態宣言を表明し、地球温暖化対策に取り組んでいます。地球温暖化の原因の一つである二酸化炭素（CO2）の排出量を減らすことが、有効な対策です。

家庭から出る生ごみは、水切りや堆肥化などで減量することができます。皆さん一人一人の取り組みで生ごみを減らし、地球温暖化を止めましょう。

☎ 環境対策課 ☎ 内線 1418


12 つくる責任 つかう責任

SDGs17の目標
12 つくる責任つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を

SDGs17の目標
13 気候変動に具体的な対策を



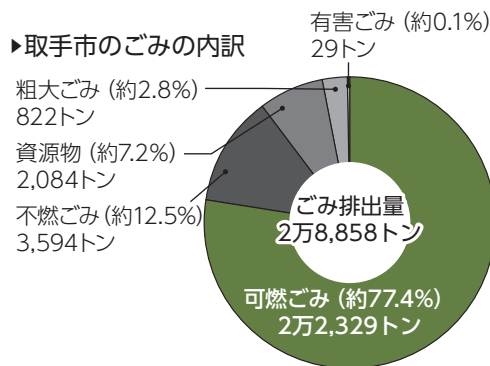
取手市は^{エスディーゼス}SDGsの取り組みを推進しています。特集記事に関連するアイコンを掲載します。

家庭で生ごみの減量にチャレンジ

◆取手市の生ごみの現状

取手市から出ているごみの約77%が可燃ごみ（出典：令和3年度常総環境センターごみ排出量）で、可燃ごみに含まれる生ごみは可燃ごみ全体の約15%（出典：令和3年度常総環境センター組成分析結果）を占めています。

家庭から出た生ごみは、集積所からごみ収集車で常総環境センターに運ばれ、焼却されます。生ごみを減らすことで、運搬・焼却に伴い発生する地球温暖化の原因の一つであるCO2の排出量を抑制することができます。



出典：令和3年度常総環境センターごみ排出量
※計算の過程で端数を処理しています。

◆食品ロスを減らしましょう

食品ロスとは、本来食べられるのに捨てられてしまう食品のことです。食品ロス量のうち、約47%が家庭から出たものです。1年間に日本全体で、約522万トン発生していると推測されています。日本全体で1人1日当たりお茶碗一杯分のご飯に相当する食品（約113g）が捨てられていることとなります。購入した食品の食べ切り、使い切りを意識しましょう。（出典：令和2年度農林水産省・環境省推計）

皮まで食べてみよう

市が提供する学校給食は、生ごみを減らすため、10月からニンジン・ダイコン・レンコンの皮をむかずに提供しています。家庭でも、根菜の皮をむかずに調理するなどの取り組みを行い、食品ロスを削減しましょう。

水切りを行いましょ！

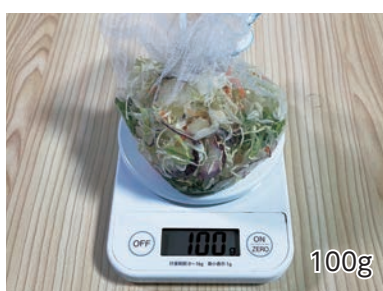
生ごみは、その約80%が水分です。生ごみをそのまま焼却すると、ごみを燃やすための燃料を水分の蒸発に使ってしまいます。水を切り、ごみを燃やすための燃料を減らせば、CO2の削減につながります。簡単にできる水切りの方法をご紹介します。※下記の数値は一つの例です。

三角コーナーを活用しましょう

生ごみを三角コーナーに入れると、自然に水分を減らせます。水切りネットも活用しましょう。

●一晩置くと、より効果的

生ごみを一晩置くだけで、絞らずに水分を減らすことができます。



ペットボトルを使って水切りにチャレンジ

ペットボトルを使うことで、生ごみに直接接触せずに水切りができます。

材料

ペットボトル、ビニールテープ、カッター、はさみ、水切りネット
※作業時のけがには十分気を付けてください

▶作り方

- ①カッターでペットボトルの上部に切り込みを入れる
- ②切り込みからはさみを入れて切る
- ③ペットボトルの先端側の切り口をテープで保護する



▶使い方

- ①水切りネットをペットボトルの穴に通す
- ②ペットボトルの注ぎ口側から水切りネットを引っ張る



◎効果 126g ⇒ 109g に減量